



平成 30 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F F R I
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鵜 飼 裕 司
(コード番号：3692 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 最 高 財 務 責 任 者 田 中 重 樹
(TEL. 03-6277-1518)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年5月15日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,765	280	280	234	28.88
今回修正予想(B)	1,664	283	283	186	22.79
増減額(B-A)	△101	3	3	△48	
増減率(%)	△5.7	1.1	1.1	△20.5	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	—	—	—	—	—

(注) 当社は平成30年3月期より連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期の数値は記載しておりません。

修正の理由

(国内)

当社グループが製品を提供している未知脅威対策の分野は、サイバー脅威の高まりを受けて市場として着実に成長しております。特に当社グループが提供する未知のサイバー脅威をエンドポイントで防御する製品を総称してNGEPP (Next Generation Endpoint Protection) と定義され、その中で当社グループの「FFRI yarai」は国内トップシェアとなっております。当事業年度におきましては、サイバー・セキュリティ市場が成長する中で、機械学習や振る舞い検知を謳った機能を備える製品が多数リリースされてきております。また、サイバー攻撃のモニタリングと事後対応を目的とする EDR 製品の出現など、セキュリティ対策手法に関するニーズの多様化が進んでおり、これらの

影響から当社グループが当初想定した売上の伸びを下回る見込みとなりました。しかしながらサイバー攻撃の対策手法としてユーザーの選択肢が増える一方で、ユーザーは当社グループの「FFRI yarai」のようなエンドポイントでサイバー攻撃を防御可能な入り口対策製品（NGEPP）を優先的に導入することで高い費用対効果を得られるとの学術発表がされるなど、当社グループは優位性を確保できているものと考えております。

（海外）

ユーザーによる当社製品の評価結果で好評をいただくことができるものの、当社グループに対する認知度は低く、製品評価に至るまでの案件化に課題を認識しております。当社グループでは、現地の販売パートナーと提携し、案件獲得に取り組んでおりますが、当初計画を下回る見通しとなりました。

2. 平成30年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,714	330	330	284	35.07
今回修正予想(B)	1,662	372	372	274	33.60
増減額(B-A)	△52	42	42	△10	
増減率(%)	△3.0	12.7	12.7	△3.5	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	1,471	257	258	271	33.54

修正の理由

平成30年3月期通期連結業績予想数値 修正の理由（国内）と同様であります。

（注）上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以上